

日本フィル「被災地に音楽を」 訪問コンサート レポート 第45号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から始まり、2019年3月現在、通算263回となりました。



訪問地 宮城県亶理郡山元町

2018年 11月27日 宮城病院

11月28日 山元町防災拠点センター つばめの杜ひだまりホール

訪問メンバー

橋本洋／中里州宏(トランペット) 原川翔太郎(ホルン)

岸良開城(トロンボーン) 柳生和大(チューバ)

これまでの山元町 訪問先

2016年8月26日花釜区交流センター、山下中学校 / 8月27日山元町こどもセンター

宮城県亘理郡山元町は仙台空港のある名取市の南に隣接し、津波の大きな被害を受けた地域です。山元町防災拠点センターつばめの杜ひだまりホールは、2017年にオープンし、その記念として金管五重奏で2年ぶりに山元町を訪れました。仮設住宅から復興住宅への移転が進む中で、前回訪問時には近くにあった仮設住宅も、2017年の春には取り壊されたそうです。住環境の安定の一方で、これまでのコミュニティがばらばらとなってしまうなど、今後いっそう地域住民同士の交流の場が求められているといえます。

宮城病院内(11月27日)

初日は2019年に創立80年を迎える宮城病院を訪れました。宮城県の難病拠点病院に指定されている宮城病院では、難病や障がいをもつ方に対する専門医療と、地域住民への地域医療に重点を置いています。当日はお天気にも恵まれ、60名を超える入院患者の方や職員の方に音楽をお楽しみいただきました。



山元町防災拠点センターつばめの杜ひだまりホール(11月28日)

館内は広々としてオープンエリアが充実しており、子どもたちが自習していました。ホールのオープン記念の一環としての訪問です。仮設住宅から復興住宅へと移り変わり周辺環境が変化するなかで、どれほどのお客さまにお越しいただけるのか、ドキドキして当日を迎えました。すると、ホール前にはお客さまが待ってくださり、開場後もお客さまの列が途切れず急きょ椅子を増やすなど、予想を大きく上まわる方々にお聴きいただくことができました。

プログラムは当日の客層を見て内容を決定し、ホルン原川の和やかな司会がお客様の笑いを誘うなど、終始とてもよい雰囲気です。午後のお楽しみいただきました。



また、メンバーは2日間にわたって震災遺構となった仙台市立荒浜小学校、そして2年後に震災遺構になる山元町立中浜小学校(写真)を見学し、津波の恐ろしさと未来に向けての防災の大切さを改めて感じました。山元町には今年11月にも訪問予定です。この活動レポートを通じて、これからも皆さまに東北の各地域の様子や現状をお届けいたしたいと思えます。